

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	令和2年8月21日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800064-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800064-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」に基づき利用者お一人お一人にあったサービスを行っている。普段の関りを深く話し話を聞き、仕草や表情を見逃さず職員間で共有し全職員が同じサービスの質を提供できるよう努め、地域から繋がりを持つよう地域行事への参加、ボランティアの受け入れも常に行っている。7月の災害時の反省や意見交流会が運営推進会議で行われ、今後、人的応援も考慮していく方向性が決まった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、元小学校グランド跡地にあり、校舎は、そのまま残っている。利用者と地域住民にとっても、事業所周辺は馴染みの場所であり、行事や清掃活動を共に行いながら交流をしている。また、地域と相互防災応援協定を結んでおり、非常用自家発電機の設定もある。特別養護老人ホームと地域住民も利用できる歯科医院が併設されており、複合施設として連携をしながら運営を行っている。管理者は、職員が働きやすい職場環境作りを努め、チームワークの良さを介護の質に反映させることで、利用者が「満足と笑顔」を取り戻し、心豊かに安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を念頭に置き、利用者の人生史を尊重し、実践出来るよう常に心がけ実践に繋げている。	法人理念をパンフレットに記載して事業所の方針を明確にし、地域と共に運営していく基本姿勢を明示している。職員は、理念カードを各自の名札に入れて携帯し、毎朝唱和することで意識化し、内容の確認を行いながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事への参加(例祭、清掃活動)又下呂市PTAによる資源回収にも参加しつながりを大切にし、地域共存社会を目指している。	事業所は自治会員でもあり、地区の行事や防災訓練、清掃活動などに参加している。事業所の年2回の清掃活動は、地域の人やボランティアの協力を得て実施している。地域住民も利用できる歯科医院が併設されており、地域との繋がりに大きく貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講演会、勉強会の参加により現場に活かしかし家族、地域ボランティア等に率先して、具体例なども伝えながら理解しやすく伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害が発生し一時孤立状態となった事とその後の対応について意見があり今後のサービスに活かすよう話し合いが持たれた。	運営推進会議は新型コロナ感染予防のため、5月は中止し、7月は開催をしている。併設施設との合同会議であり、7月の豪雨による土砂災害の経験で明らかになった課題点を話し合い、対策について検討している。会議は家族が参加し易いよう行事と抱合せて開催する時もあり、議事録は全家族に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議、人材バンク会議への参加、市の担当者には現状報告し、情報の交換を図っている。また居宅介護支援所とも常に情報交換し共有している。現状をお互いが把握できることにより、より早い対応を心がけている。	行政から配信される情報は常に目を通し、運営に活かしている。豪雨・土砂災害で道路が寸断し、孤立状態になった際には行政に協力を仰ぎ、他施設からの応援を得ることが出来ている。また、市の補助金制度を活用し、非常用自家発電機を設置している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、勉強会(事例検討会)や研修を受け拘束のない支援のあり方に全員が取り組んでいる。	身体拘束委員会は3か月毎に開催し、全職員が交代制でメンバーに加わっている。事故やヒヤリハット事例、言葉による拘束などについて話し合い、会議録を全職員に回覧している。玄関の施錠を含め、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止には常に話題性を持ち職員が意識を高められるよう普段なにげない時でも、話題にしている。また、常に意識出来るよう勉強会や会議での話題性も高めている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設利用者の中でも独居の方が増えている。個々に応じて必要とされる場合は関係者と常時説明を行っている。また入居時にも説明を加えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間をかけ自宅へ出向き行っている。利用者、家族の意向をお伺いし、説明は丁寧に理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の様子を家族には毎月のお手紙や写真を送りご理解頂いている。面会や電話でも常時お伝えできる環境にある、要望等があるときは心身に受け止め、会議を通じて職員に周知している。	担当者は、毎月、利用者の写真を添えた手書きメッセージを家族に郵送しており、面会カードには、時々、家族からの感謝の言葉や感想が記入されている。新型コロナ感染予防対策として、三密を避けるために広いホールで、限定した家族のみ面会を可能にしている。外部評価結果は、家族が閲覧できるように公開している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議という機会を設け普段の業務の様子や意見を聞く機会を設け、業務の見直し等、反映させている。	管理者は現場の業務も兼ねており、職員会議以外でも職員の意見や要望を聴く機会が多い。コロナ禍の中では外部研修が難しく、外国人技能実習生を交えて内部での学習機会を設け、全職員のモチベーションの喚起を図りながら、意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には常に情報を提供している。自己評価を含め意見の徴収、面談を行い、各自の向上心の向上につなげ、やりがいのある職場で勤続できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	考えながら働くことにより疑問や意見が話し合える職員同士の関係作りがある。施設内研修、勉強会へは勤務を交代しながら全員が参加し知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、高齢福祉課、医師会主催の認知症の理解を深める講座に参加し相互の活動を理解し取り入れるべき事は話し合いサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面時には、本人の話を細かく聞く、又心身の状況を見て確かめ不安や思いをくみ取り、大丈夫という受け止めの言葉をかけ安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明には時間をかけ、家族にとっても苦痛なく納得がいくまで要望や説明に勤めている、また後日でも電話でも対応させて頂けるよう説明し理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をゆっくり全て聞き入れ最も最初に必要とするサービスの導入を見極め施設での最大限のサービスの提供を提案し両者納得の上、利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ出し、自分も必要とされる、されている立場なんだと、思えるよう、明日への活力に繋げられる生活を両者が送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡の取れる、携帯電話の使用や家族の対応をお願いしている。普段の会話にも家族や大切な人への話題を多くできるように、忘れないように職員は注意を払いながら関係を構築させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に近所の方や友人の面会が多く雰囲気作りに努め切れることのない生活が送れるよう支援している。馴染みの美容院、温泉施設へも家族と一緒に外出される事が多い。	家族と馴染みの美容院や温泉に出かけたり、職員と買い物や喫茶店に出かけている。友人や身内の面会も多い。現在は、新型コロナ感染予防対策として、面会を制限することもあるが、電話や手紙で関係の継続を支援している。コロナ終息後には、再開を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身の状態の差はあるができる力を発揮し出来なくても攻めることなく温かい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様に電話にて近状報告を行い施設での生活を記録したアルバムを贈り家族に安心感をもって頂ける様に努め、繋がりをいつまでも保てるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で思いを把握し職員間で検討し本人の意向に近づけるよう努めている。日々変化のある状態観察、健康チェックも、うまく意思を伝えられないこととしてある為怠らないよう努めている。	職員は、毎日のバイタルチェックを含めて、利用者の様子を観察し、わずかな表情の変化や行動を見逃さないよう努めている。寡黙な利用者には、さりげなく寄り添いながら声かけし、思いの把握を心がけ、職員間で情報を共有し統一したケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族、担当支援専門員から情報を集めるほか、入所後も施設内の生活から安心できるケア方法を見つけ安心に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は各々が暮らしが違うことを理解し暮らしやすさに寄り添いながら職員間では共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が、毎月モニタリングを行い特に変化のあった部分をユニット内会議に話し合い全員で意見を出し合いプランに反映し介護計画のもと、統一したケアに努めている。	介護計画に基づいたケアができていないか、毎月、職員全員で全利用者の実践状況を評価し、次の介護計画に繋げている。また、医療関係者の意見、利用者・家族の意向を反映させた介護計画書となっている。	介護記録を基に、家族の意向を反映させた介護計画を作成している。ケアの実践報告と共に、計画内容について、年に1度は家族と顔を合わせて話し合い、場の開催に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は日々起こったことを事実のまま記録し利用者の第二の声と受け止め、会議や管理者に報告や相談し職員間の統一を測り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況を見極め柔軟な対応に最大限の提供を行っている。併設型施設の為機械浴や栄養補助食品の提供、補助具の提供も行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア(傾聴、野球チーム、近隣)の力を借りて日々の生活に変化をもたらす充実のある生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療所から往診体制をとっている、24時間往診体制が整い又、相談等も電話にて受け入れて頂ける体制を取っている。又併設されて歯科へは診療に通院できる状態である。	利用者全員が、協力医である在宅診療所をかかりつけ医として選択し、定期的に往診を受けている。専門医への受診は家族が対応している。歯科医院が併設されており、通院の負担なく、歯の治療や口腔ケアが受けられる環境にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師が、定期的に勤務に入り健康状態の把握に努め、急変時の対応や主治医への報告や家族への説明、アドバイスにも力を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は情報提供を敏速に行い情報の共有を行っている。病院関係者とは訪問し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化したときの意向の確認を行い指針の説明、同意書を交わしている。実際に看取り期には、医師から家族への説明の面談を設け安心出来る環境作りを行っている。	家族には重度化・看取り指針を提示し、家族の意向を事前確認している。利用者の状況変化に合わせ、再度家族とも面談し、終末期について話し合っている。24時間医療体制を整え、関係者と連携を密にしながら、穏やかな最期を迎えられるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員参加の救急救命訓練を実施し、職員同士が確認、共有し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月の水災害、土砂災害は深夜発生、避難命令が発表された。避難はせず様子を見ることとした。地元の消防団が何度も見回りや声掛けに来て大変心強い体制だった。翌日通行止めが続き職員の確保が非常に困難だった。	災害訓練は、コロナの影響で中止している。7月の豪雨・土砂災害では、一時、孤立した事もあり、緊急時対応マニュアルの見直しや職員体制、備蓄品の確保など課題が明らかになり、改善に取り組んでいる。非常用発電機も設置完了し、地域と災害時相互応援協定を締結している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にも掲げてあるように、利用者の人生史を大切に言葉かけの中に取り入れながら密な関係を作り丁寧な対応に心がけている。	事業所は、おもてなすべき大切な人として、利用者を「ゲスト」と呼んで接しており、その姿勢を全職員に徹底させている。また、利用者一人ひとりの人格や価値観を尊重し、自尊心を傷つけない言葉かけや対応を心がけ、排泄介助時にも、羞恥心に配慮しながら、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	迷いなく自己決定が行える支援を行っている。明確で理解しやすい言葉掛けを職員は注意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化ある利用者の思いを聞き一日を過ごしていただいている。お茶の時間や食事の時間も本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれにまかせ、身だしなみには声かけ程度とし、迷いの少ない身だしなみを心がけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や郷土料理を取り入れながら利用者とも会話が弾み出来る範囲で一緒に料理し味付けの感想も共有できる関係作りを行っている、又後片付けは全員が参加し食器拭きやおしぼりを巻いてくださる。	食事作りは、チームワークの良さを活かして、当番制で行い、男性職員も調理を担っている。利用者も、野菜の皮むきや食器洗い、その日の献立書きなど、得意な事で関わっている。盛り付けや彩り、器にもこだわるなど、五感で楽しめるよう工夫し完食につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を把握し、水分制限や栄養バランスの提供も行っている。また自分で水筒を持参しミネラルサーバーで水素水をいれて自室でも水分を摂取できる状態である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず、施設内の歯科衛生士による口腔ケアや状態把握に努め健康維持に繋げている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を確認し、早めの対応を心がけ失敗の少ない支援を行っている。	利用者全員が、昼夜ともトイレでの排泄を習慣にしている。トイレの場所が分かるように、トイレ扉に大きな文字で表示している。夜間もポータブルトイレを使用せず、職員が見守りと転倒防止に努めている。排泄用品は業者から直接購入することができ、費用負担の軽減になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や、食物繊維を多く摂取し毎日の日課で運動や体操、散歩を取り入れ便秘の予防と対応に取り組んでいる。薬をなるべく使用せず自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴時間を提供し、羞恥心に配慮し異性入浴介護を拒否される利用者には同性介護を行っている。又汗をかいたときなどは足浴やホットタオルの提供を行っている。	利用者のニーズに応え、就寝前の入浴にも対応していたが、今は夜間の入浴希望者はいない。信楽焼き浴槽で風情ある入浴を楽しむことができ、時々、地域から温泉を調達している。個浴槽での入浴が難しい人は、併設施設の機械浴を利用している。脱衣室は床暖房設備が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し自分のペースで休んで頂くよう支援し夜間眠れない時は無理をせず職員が寄り添える範囲で寄り添い安心に繋げ入眠の手助けに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を確認しやすくするために日々の介護記録に薬の詳細を一緒に挟んでいる、服薬の毎日の確認印も行い職員間でダブルチェックを行ない飲み忘れのないケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を発揮出来るよう日課表に記載し全員が支援出来る状況にある、やる気をださせる声かけを行い楽しみややりがいに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で戸外に出て気分転換に努めている。又家族や親戚、知人の協力を得て温泉や理容員、買い物、外食等繋がりを持ち楽しみに繋げている。	山間地域で車の往来も少なく、利用者は事業所周辺を気ままに散歩したり、野菜や花などの水やりや草取りに外へ出ている。新型コロナウイルス感染予防の為、外食や買い物等は自粛しているが、洒落たレストランのような雰囲気があるホールで、バイキング食や行事食を楽しめるよう、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て本人の不安を取り除き、多少の金銭を持参している利用者は数名みえる。時々、自販機での買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持される利用者は数名みえ家族や知人に常時連絡の取れる環境にあり繋がりを大切にされる、また施設の電話を使い家族等に連絡される利用者もあり、繋がりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設する特養へは常時行ききでどこでも安らげる空間の提供場所がある、季節の物を自然から多く取り入れ、快適で日々変化のある充実感ある場所となるよう工夫をしている。又面談室でもいつでもお茶やコーヒー等飲みくつろげる場所があり利用している。	事業所内はどこも清掃が行き届き、清潔感がある。広い廊下の要所には、利用者がゆっくり一人で過ごせる畳コーナーやベンチも設置されている。また、随所に野の花や季節の作品を飾り、水槽の魚を見て楽しむこともできる。廊下以外は床暖房設備があり、快適な環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設館内はどこでも出掛けることができ数人で出かけられる事が多い、又一人で過ごしたい利用者にはそと職員が寄り添い寂しさのない支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら慣れ浸しんだ家具や洋服を取り入れ迷いなく安心し又懐かしく思い出せる居室作りを行っている、利用者同士がお互いの部屋に入り雑談やテレビを一緒に観て過ごせるそんな仲間作りも出来ている。	利用者が容姿を整えたり、口腔ケアができる広い洗面台が設置されており、畳の居室もある。チェストや整理タンスなどを持ち込み、整理整頓されている。モップ掛けを習慣にしている人もあり、写真や花を飾り、利用者の個性が感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるよう、利用者が手書きされた表札や目印がある。利用者同士で教え合いながら理解し自立した生活が送られている。		